無断複製・転載禁止

プレスリリース　2024.10.10

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

展覧会概要

展覧会名　没後 120 年　エミール・ガレ：憧憬のパリ

会　　期　2024 年 11 月 2 日（土）～ 2025 年 1 月 26 日（日）

会　　場　富山市ガラス美術館 2･3 階　展示室 1－3　（〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号）

主　　催　富山市ガラス美術館

後　　援　在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ、北日本新聞社、富山新聞社、NHK 富山放送局、北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ

開場時間　9：30 – 18：00 (金・土曜日は 20：00 まで、入場は閉場の 30 分前まで)

閉 場 日　第 1・3 水曜日、年末年始（12/29-1/1、1/8）

観 覧 料　一般 1,200 円（1,000 円）　大学生 1,000 円（800 円）

※（　）内は 20 名以上の団体　※本展観覧券で常設展も観覧可

【前売券取扱い】　一般 1,000 円のみ

アスネットカウンター　Tel 076-445-5511 / TOYAMA キラリ 1 階総合案内

※下記に該当する方は観覧料が無料となります。

〇高校生以下の方 〇富山市に住所登録がある 70 歳以上の方

〇お出かけ定期券またはシルバーパスカご提示の 65 歳以上の方

〇身体障がい者手帳、療育手帳、または精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方及びその介助者（1 名）〇団体引率者

AMBASSADE DE FRANCE AU JAPON

INSTITUT FRANÇAIS

QR コードを読み込むことで、本展覧会の概要を多言語にてご覧いただけます。
（日本語、英語、簡体字、繁体字、ハングル、仏語、独語、伊語に対応）

QR Translator.

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

TOYAMA キラリ　富山市ガラス美術館 TOYAMA GLASS ART MUSEUM

展覧会について

富山市ガラス美術館では、「没後 120 年　エミール・ガレ：憧憬のパリ」を開催いたします。（2024.11.2 - 2025.1.26）富山で開催される初めての大規模なガレ展となります。以下、内容をご確認の上、ご覧いただければ幸いに存じます。なお、本展は富山での開催後、サントリー美術館（東京）に巡回する予定です。

エミール・ガレ（1846-1904）は、アール・ヌーヴォー期、フランス東部ロレーヌ地方の古都ナンシーで、父が営む高級ガラス・陶磁器の製造卸販売業を引き継ぎ、ガラス、陶器、家具において独自の世界観を展開し、輝かしい成功を収めました。晩年の 1901 年には、様々なジャンルにわたるナンシーの芸術家たち 36 名とともに「ナンシー派（産業芸術地方同盟）」を結成し、初代会長も務めています。

ナンシーの名士として知られる一方、ガレ・ブランドの名を世に知らしめ、彼を国際的な成功へと導いたのは、芸術性に溢れ、豊かな顧客が集う首都パリでした。父の代からその製造は故郷ナンシーを中心に行われてきましたが、ガレ社の製品はパリのショールームに展示され、受託代理人を通して富裕層に販売されていったのです。ガレ自身も頻繁にパリに滞在しては、取引のあった販売店を訪ねました。1878 年、1889 年、1900 年にはパリ万博という国際的な大舞台で新作を発表し、特に 1889 年万博以降は社交界とも繋がりを深め、その名を広めていきました。しかし彼自身が知人への書簡で訴えていたように、その成功によってもたらされた社会的ジレンマや、彼にのしかかる重圧は、想像を絶するものだったことでしょう。1900 年の万博のわずか 4 年後、ガレは白血病によってこの世を去りました。

本展覧会は、ガレと彼の地位を築いた憧れのパリとの関係に焦点を当て、彼の創造性の展開を顧みる試みです。輝かしい名声、それゆえの苦悩、そして発展……、世界的芸術の都パリという舞台なくしては、ガレの芸術性も成し遂げられなかったでしょう。

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

展示内容

プロローグ：1867 年はじめてのパリ万博、若かりしガレの面影

エミール・ガレの父シャルル・ルイ・エドゥアール・ガレ(1818-1902)はパリに生まれ、パリで絵付けの修業をした磁器装飾職人でした。1844 年に商用でナンシーを訪れたのをきっかけに、翌年にはファニー・レーヌメール(1825-1891)と結婚し、彼女の実家であるクリスタル製品と磁器を扱う店を発展させるのに貢献します。

シャルルは 1854 年に店の責任者となった頃から、パリでの販売に力を注ぎ、パリに受託代理人を立てて自社の普及に務めました。1854 年からナポレオン 3 世の数々の邸宅に食器セットを納入するようになり、1866 年には「皇帝陛下御用商人」との名誉ある肩書を手にしたのです。彼はクリスタルガラス、ファイアンス（軟質施釉陶器）、磁器のほとんどすべてにおいて、絵付け前の「ブラン」と呼ばれる半製品を各地の製作所に依頼し、かの地やナンシーで加飾する方法をとりました。この制作工程はエミールの代にも引き継がれています。

さて、1867 年のパリ万国博覧会に出品したシャルルは、本万博のガラス部門で選外佳作賞を受賞しました。彼の手がける製品は、歴史主義的かつ繊細で、注目を得たと言います。1864 年から家業のなかでも陶器デザインを手伝うようになったエミールは、この時父を手伝い、半年間パリに滞在しています。このセクションでは、若かりしエミールの原点とも言える作品をご紹介します。

第 1 章：ガレの国際デビュー
1878 年パリ万博から 1884 年第 8 回装飾美術中央連合展へ

エミール・ガレは、1877 年に家業を引き継ぎ、正式に事業主となりました。翌年の 1878 年のパリ万博は、彼が初めて指揮をとった恰好の国際デビューの機会となったのです。フランスのバカラを始め、欧州各国の大手メーカーや個人工房から出品されたガラス作品は、240 点余りに上りました。こうした強豪の中で、ガレはめでたく、ガラス部門で銅賞を受賞し、世界の大舞台で順調なスタートを切ったのです。ガレの作風は透明ガラスにエングレーヴィングやエナメル彩、金彩を施すものが主流でしたが、新たに発表した淡い水色のガラス素地「月光色ガラス」は、大いに人気を博し、欧州各地で模倣されるようになったのです。

続いてガレは、1884 年にパリで開催された第 8 回装飾美術中央連合展（石、木、土、ガラス）に参加します。これに際しガレは、本展の審査員向けに自らの出品作品について丁寧に述べた解説書を携えて挑みました。彼の作品に詩文が加わり始めたのもこの頃からで、こうした作品を「もの言うガラス」と呼び、文学を積極的に作品に取り入れることを宣言したのです。ガレは本展において、陶器、ガラスの 2 部門で金賞を受賞しています。その上「フランスの誇りのひとり」、また「パリ展での新星」など、熱い賞賛を得たと言います。本章では、パリに迎えられた初期のガレの様子を、作品を通して紹介します。

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

コラム１：パリの代理店エスカリエ・ド・クリスタル

ガレ父子は、ナンシーに拠点を置きながら、パリでの販売促進に力を注ぎました。パリ・ナンシー間はおよそ 300km 余り、当時は馬車で行くのが一般的でした。足繁く通う訳にもいかない時代、父シャルルは会社を引き継いだ時から 25 年間にわたり、パリの信頼できる代理人に受託を任せました。そのスタイルはエミールにも引き継がれています。1879 年、パリに店を構えるマルスラン・デグペルス(1844-1896)が、公式にガレ商会の総代理店を担いました。マルスランの死後は、息子アルベール(1873-1966)がこれを継承しています。

パリにショールームを構える一方で、高級小売店に販売を任せる場合もありました。美術工芸品店エスカリエ・ド・クリスタル(「クリスタルの階段」の意）はそうした取引店のひとつです。ここではガレ作品なかでも、この店に販売権を許したモデルを取り上げます。

第２章：1889 年パリ万博、輝かしき名声

快調な滑り出しを果たしたガレが、真の意味で輝かしい成功を収めたのは、1889 年パリ万博でした。ガラスに対する科学的な研究を重ねた結果、新たな素材と技法を開発し、およそガラス作品 300 点、陶器 200 点、家具 17 点という膨大な出品作品と、高さ 8mと 15mにおよぶ２つのパヴィリオンを準備したガレは、本展のガラス部門でグランプリ、陶器部門で金賞、そして家具部門で銀賞を得るなど、大成功を収めました。家具は 1886 年に新たに制作を開始したジャンルで、寄木細工による装飾が特徴的ですが、着手から受賞までわずか３年と急成長を遂げています。ガラスにおいては、新たに開発された素地や手法が加わり、造形の幅が広がりました。中でも黒色ガラスを積極的に活用した作品群では、悲しみや生と死、闇、仄暗さなどを表現する独自の世界を展開したのです。ガレの作品に、物語性や精神性が色濃く滲み出るようになったのも、この万博での特徴と言えるでしょう。ガレは本展での実績よって、翌年、フランス５大美術団体のひとつである国立（国民）美術協会の会員として認められることとなり、毎年パリで本協会が主催する展覧会に出品するチャンスも手にしました。本章では、1889 年パリ万博での、ガレの画期的な発展の成果を中心にご覧いただきます。

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町５番１号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

コラム２：パリ・サロンとの交流

1889 年のパリ万博で輝かしい名声を手にしたことを契機として、ガレの交流はパリの社交界に広がります。作家のエドモン・ド・ゴンクール（1822-1896)や批評家で高官のロジェ・マルクス(1859-1913)ほか、地道にパリでの人脈を広げつつあったガレが、本万博において、パリ・サロンの中心人物ロベール・ド・モンテスキウ＝フザンサック伯爵(1855-1921))と出会ったことは、社交界におけるガレのネットワークの構築において、重要な出来事となりました。モンテスキウを通じて、大女優サラ・ベルナール(1844-1923)やマルグリット・モレノ（1871-1948)、小説家のエミール・ゾラ(1840-1902)、芸術家のオーギュスト・ロダン(1840 -1917）など、芸術文化や社会に影響力のある面々たちとの関係が華やかに広がったのです。ガレの創作には、彼らからの発注や共同制作、またその関連の中から生みだされた作品が少なくありません。

こうしたネットワークは、ガレ自身をパリの名士へと後押しする一方で、世紀転換期のフランス世論を揺るがしたドレフュス事件といった社会問題においても、ガレに想像以上の責任を課すことになりました。このセクションでは、パリの社交界との繋がりを示す作品をご紹介します。

第３章：1900 年、世紀のパリ万博

1900 年のパリ万博は、５千万人以上の人が足を運び、フランス史上、最も華やかな国際舞台となりました。しかし実際には、開催に大きな反対もありました。ナンシーも反対した都市のひとつです。

この頃のガレは、フランスを代表する装飾芸術家として、パリでの地位を固めつつありました。故郷ナンシーの文化を推し進めながらも、パリでの博覧会には出品したい、そんな相反する想いがガレに渦巻いていたと言います。また 1894 年には、フランス社会を二分にしたドレフュス事件が起こります。ユダヤ人大尉ドレフュス(1859-1935)がドイツのスパイとして逮捕された冤罪事件ですが、ドレフュス擁護派のガレの振る舞いは、軍を賞賛してナショナリズムが沸き起こるナンシーでは、かえって反発を買ってしまいます。また 1897 年には彼の芸術の保護者であったモンテスキウと決別しました。1900 年のパリ万博を前にしてガレは、ナンシーとパリ、故郷と国際都市との間で、想像以上の精神的重圧に苦しんだことでしょう。

こうした状況で挑んだ 1900 年の博覧会は、彼にとって最後のパリ万博となりました。ガラス作品に対する既存の概念を超え、ガレは独自の世界観を展開しています。そのテーマも生と死を暗示させる精神性の強いものとなり、彼の作品は、造形的にも観念的にも密度が濃く、見る者の心を震わすものへと昇華していきました。この章では、1900 年頃の作品を中心に、これに至るまでの傑作の数々をご覧いただきます。

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町５番１号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

エピローグ：栄光の彼方に

1900 年までの成功の裏側で、その準備に枯渇し、社会問題の中で戦い、故郷ナンシーでは名声ゆえの反発を買うこともあったというガレ。新しい世紀を迎えた 1901 年あたりから、彼は度々療養を繰り返すようになりました。そして 1904 年 9 月 23 日、白血病によってその人生に幕を下ろしたのです（享年 58）。その後会社は遺族が引き継ぎますが、ガレの発想力と探究心を失ったガレ商会に新たな展開は望めず、1930 年、前年の世界恐慌の煽りも受けて工場は閉鎖、翌年溶解炉も停止しました。

独自の芸術性のために奔走し、その人生を捧げたガレの作品は、これまでのガラスという枠組みを悠かに超え、芸術として自律しています。それはガラスにおける表現の可能性に心血を注いで挑んだ彼の魂の結実と言えるでしょう。エピローグでは、ガレの最晩年である 1901 年からの 4 年間、おそらくは死を覚悟していた彼の心情と集大成をご覧いただきます。

出品作品（予定）

1

2

3

4

5

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

6

7

8

9

1.《花器「海馬」》1901 年　パリ装飾美術館　Paris, musée des Arts décoratifs © Les Arts Décoratifs / Christophe Dellière
2.《花器「葡萄畑のエスカルゴ」》　1884 年　パリ装飾美術館　Paris, musée des Arts décoratifs © Les Arts Décoratifs
3.《花器「アネモネ」》　1897 - 1904 年　ウッドワン美術館
4.《花器「鯉」》　1878 年　大一美術館
5.《花器「ジャンヌ・ダルク」》　1889 年　大一美術館
6.《花器「蘭」》　1900 年　ポーラ美術館　©公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館
7.《花器「秋」》　1900 年　パリ装飾美術館　Paris, musée des Arts décoratifs © Les Arts Décoratifs / Laurent-Sully Jaulmes
8.《花器「オダマキ」》　1898 - 1900 年　サントリー美術館（菊地コレクション）
9.《脚付杯「蜻蛉」》　1903 - 04 年　サントリー美術館
＊いずれも制作者はエミール・ガレ

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

関連プログラム

開会式
日　時：11 月 1 日（金）16：00 から
会　場：富山市ガラス美術館　2 階ロビー、2･3 階展示室 1-3
受付は 15：30 から行います。
開会式終了後は関係者及びマスコミ向けの内覧会を行います。（開会式終了～18：00 まで）

ライブラリー＆ミュージアムコンサート：ギターとフルートによる光のアール・ヌーヴォー
日　時：11/10（日）13：00-13：30
場　所：富山市ガラス美術館　2階ロビー
出演者：神保侑典（ギター）、四十谷諒（フルート）
参加無料、申込不要

ワークショップ：「ガラスのヒンメリを作ろう」
日　時：12/7（土）①10：30-12：00、②13：30-15：00
場　所：6階レクチャールーム
対　象：小学4年生以上
定　員：各回10名
参加費：2,500円
※事前申し込み制
※申し込み方法などの詳細は当館公式ホームページをご覧ください。

記念講演会
日　時：1/18（土）14:00～
場　所：富山市ガラス美術館　2階ロビー
講　師：土田ルリ子（富山市ガラス美術館館長）
テーマ：「エミール・ガレ：その人と芸術」
参加無料、申込み不要（入場の際、展覧会チケットの半券をご提示ください。）

館長による作品解説
日　時：11/10（日）、11/30（土）、12/15（日）、1/11（土）
各回14：00-
場　所：富山市ガラス美術館　2･3階展示室1-3
参加無料、申込み不要

※展示室への入場には、本展観覧券が必要です。
※関連プログラムの詳細は美術館公式ウェブサイトやSNSなどでお知らせします。
※プログラムは都合により中止、または変更となる場合があります。
　最新の情報は美術館公式ウェブサイトをご確認ください。

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

美術館概要

10. 富山市ガラス美術館　外観

11. 富山市ガラス美術館　内観

富山市ガラス美術館は、「ガラスの街とやま」を目指したまちづくりの一環として、2015 年 8 月に開館しました。本美術館は富山市立図書館本館などが入居する複合施設「TOYAMA キラリ」内に整備され、富山市の中心市街地に位置することから、文化芸術の拠点としてだけでなく、まちなかの新たな魅力創出の役割を担ってきました。

世界的な建築家の隈研吾氏が設計を手掛けた建物は、御影石、ガラス、アルミの異なる素材を組み合わせ、表情豊かな立山連峰を彷彿とさせる外観となっています。また、内部は富山県産材のルーバー（羽板）を活用した開放的な空間となっています。

常設展として、アメリカの現代ガラスの巨匠、デイル・チフーリ氏によるインスタレーション作品を展示する 6 階「グラス・アート・ガーデン」のほか、所蔵作品を紹介する 4 階「コレクション展」や 2 階から 4 階の展示室壁面などに富山ゆかりの作家が制作した作品を展示する「グラス・アート・パサージュ」があります。また企画展では 1950 年代以降のグラス・アートを中心に、様々な美術表現を紹介しています。

交通アクセス

［ 富山駅より ］
〇徒歩 20 分 〇市内電車南富山駅前行に乗り、「西町（にしちょう）」下車、徒歩 1 分
〇市内電車環状線に乗り、「グランドプラザ前」下車、徒歩 2 分
（富山駅から「西町」「グランドプラザ前」まで約 10 分）

［ 富山空港より ］
〇地鉄バス（富山空港線）「総曲輪（そうがわ）」下車、徒歩 4 分

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

美術館公式 SNS アカウント

Instagram

アカウント名
toyamaglassartmuseum

Facebook

アカウント名
toyamaglassartmuseum

Youtube

チャンネル名
ToyamaGlassArtMuseum 富山市ガラス美術館

報道関係のお問合せ先

富山市ガラス美術館
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310　E-mail bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp（代表）
広報担当：渡辺、小谷　　展覧会担当：土田

広報用画像の貸出しについて
p.4～5、7 の画像 1～11 を広報用に貸出します。ご希望の方は、p.9 の画像貸出し申請書の使用条件をご確認の上、メールまたは Fax にて上記の美術館広報担当へ申請書をお送りください。

無断複製・転載禁止

年　　月　　日

（宛先）富山市ガラス美術館長

担当者：
Ｔｅｌ：
Ｆａｘ：
E-mail：
住所：
団体名：

富山市ガラス美術館　画像貸出し申請書

次のとおり、掲載用素材として企画展「没後 120 年　エミール・ガレ：憧憬のパリ」の画像を申し込みます。

1. 掲載（放映）媒体名：

2. 媒体種別：TV　新聞　雑誌　フリーペーパー　電子書籍　WEB サイト　携帯媒体
その他（　　）

3. 掲載の趣旨
別紙のとおり（媒体資料を添付してください）

4. 掲載（放映）日時：

5. ご希望の画像番号：

○ 画像は原則、全図でご使用ください。トリミング、部分使用、縦横比の変更、文字のせはご遠慮ください。
○ 画像掲出には別途指定するキャプションを必ず入れてください。
○ 展覧会広報のみにご使用ください。他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
○ 商品のＰＲ等の商業利用に関しては画像の提供は出来ません。
○ 画像の２次使用はご遠慮ください。
※画像が使用できる期間は展覧会期間内のみとなります。
※同一記事の再掲載や再放送等については再申請が必要となります。
○ 校正ゲラの段階で情報の確認をさせてください。
○ 記事が掲載された場合は掲載見本（DVD、掲載紙、掲載誌等）を美術館広報担当へご寄贈ください。

申請書送付先：富山市ガラス美術館 広報担当　E-mail: bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Fax：076-461-3310

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp